

事業所における自己評価結果（公表）

公表：2023年 1月 31日

事業所名：こども発達らぼ & kids相模原

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	2	定員人数になると少し手狭になるのでグループ分けをしたり、外活動を多く取り入れている。	体格や年齢によるが、定員になると生活スペースと一緒に、すこし狭い。今後もグループ分けや外活動を充実させていく。
	②	職員の配置数は適切である	7			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	2	毎日チェック表を用いて、清掃を行っている。エアコンによる空調調節や窓開けや空気清浄機での換気をしっかり行っている。	出入口や室内での段差があり、バリアフリーではない。また、フロアマットを引いているので多少の段差があるが、クッション性に優れているので大きな怪けに繋がっていない。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7			活動スペースが狭い分、グループ分けをしたり、外活動を多めにして工夫している。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	1	決定事項をしっかり各スタッフに伝達している。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		タイムリーに共有し、業務改善に努めている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			開所一年目なので、今回初めて公開いたします。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		7		外部評価は受けていない。今後検討する。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			事業所内研修を行っている。今後、外部研修も検討。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1		いろいろ試している所。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	7			
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		職員全体で案を出し合い、色々なプログラムを作成している。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7		午前中は集団活動、午後は個別活動と時間を決めて活動を行っている。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		毎日ホワイトボードにて、メンバーや活動の内容、役割分担など設定して、指導員で共有している。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		支援終了後に職員で話し合い、翌日までに共有している。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		業務日報、支援日誌を毎日つけている。	

	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7			
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		7		相談支援事業所よりまだ子どもの支援状況に対するサービス担当者会議が行われていない。行われた場合は参加する。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7		通園している保育園や病院各所へ必要に応じて出向いたり引き継ぎ書を作成している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				対象者なし
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				対象者なし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		7		コロナの影響で控えていたが、今後交流の機会を作っていきたい。
保護者への説明責任等	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		7		まだ参加したことがないので、活動の情報を積極的に取り得れるようにし、今後参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	2		プログラム化はしていないが、相談に応じている。今後プログラム化も検討している。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		保護者の意向を引き出しつつ、丁寧に伝えることに努めている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		電話やメール等で、いつでも相談を受け付けている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7		年に一度、保護者会を開催している。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		電話やメール等で、いつでも相談を受け付けている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	5		今後、発行予定。現在はメール等で定期的に活動の様子や写真を送っている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			

	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		日頃の様子を、連絡帳やメール等でお伝えしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7			コロナかなので難しい面もあるが、ハロウィンで地域の方との交流が出来たので、広げていきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7		各マニュアルはいつでも閲覧できるように事業所に置き、保護者様にも閲覧できる旨のお手紙を配布してある。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		月に一回防災訓練、火災訓練等を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1		服薬や発作に関しては把握しているが、予防接種に関しては確認していない。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		おやつ時のアレルギー確認を必ず行い、用紙に記入し、ダブルチェックを行なっている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		職員でヒヤリハット事例を作成し、共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		適正な研修を年に二回行い、意識啓発に努めている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	2		ご契約時に契約書の読み合わせをし、ご説明している。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。